

2012年3月2日

## マーケットトピックス

### 本日のトピックス

- ・ECB3年物オペレーションの影響
- ・原油 100ドル突破
- ・本日のおまけチャート 豪ドルと株価指数

#### 【ECB3年物オペレーションの影響】

ECBによって行なわれた3年物資金供給、12月に続く2回目の今回、800の金融機関が参加。前回を上回る5295億ユーロの応札があった。

(前回:523金融機関・4890億ユーロ)

本オペレーションによる為替市場、株式市場における強い反応は現在のところ確認できない。

(図1:ユーロドル 日足)



(出所:ブルームバーグ)

しかし、低コストの融資を受けた金融機関は、その余剰資金を比較的高い金利の債券に投入するという、前回と同様の動きは確認できる。

それにより、イタリア、スペインといった去年末にマーケットを賑わした国の債券利回りは急低下中。

図2は、イタリアの2年債利回り。  
 下落傾向であったのだが、そのピッチが加速。  
 緊張感が高まった去年夏のレベルを下回る水準。  
 (図2:イタリア2年債利回り)



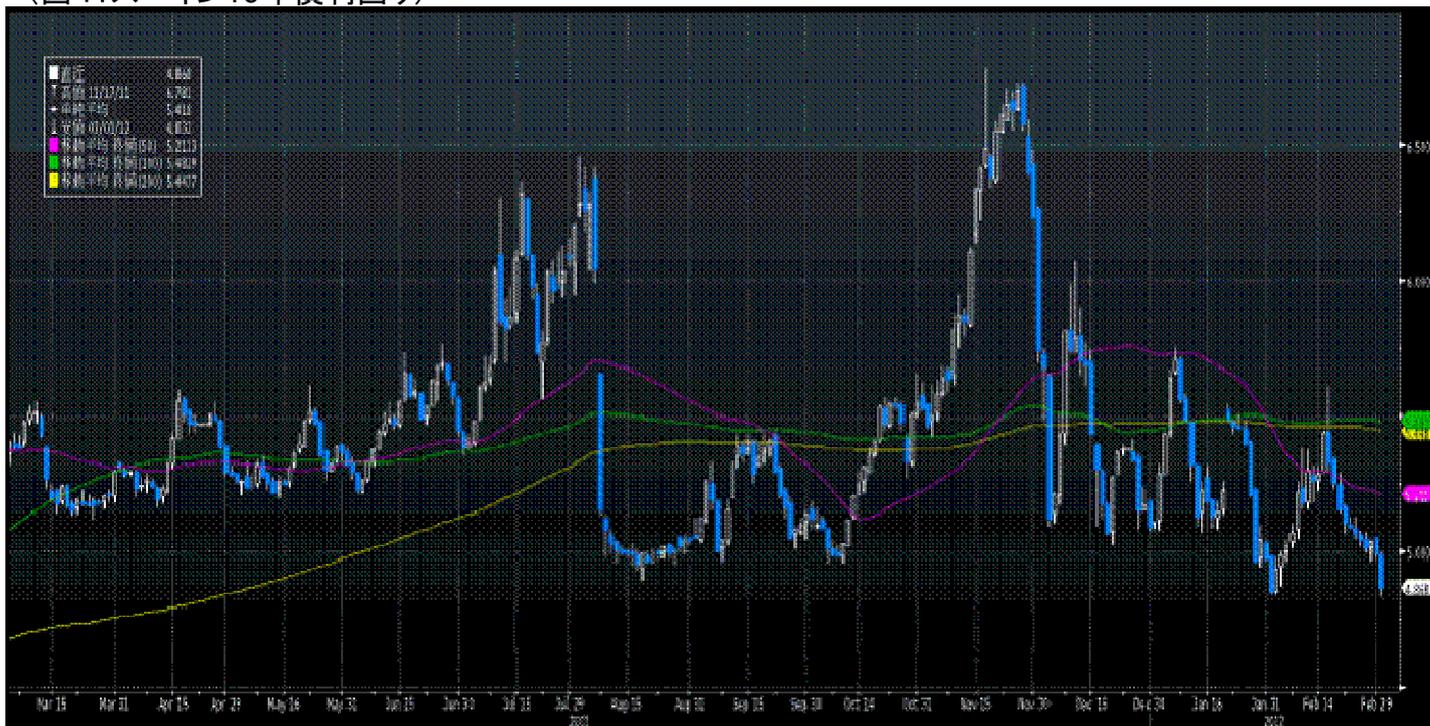
(出所:ブルームバーグ)

図3は、イタリア10年債利回り。  
 去年末は7%を上回る水準であったのが、現在は4%台。  
 (図3:イタリア10年債利回り)



(出所:ブルームバーグ)

そしてスペイン。こちらも、着実に沈静化傾向。  
 (図4:スペイン10年債利回り)



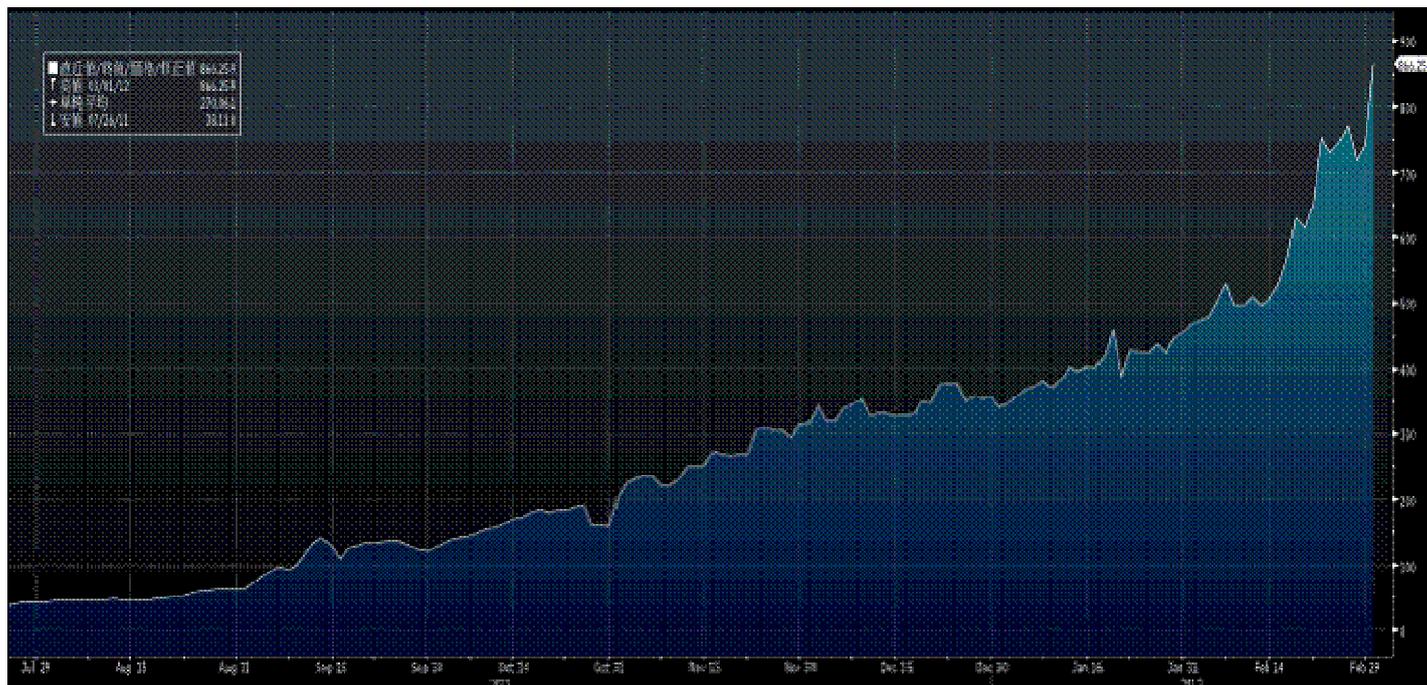
(出所:ブルームバーグ)

しかし、ポルトガル、ギリシャといった国の債券はさすがに積極的には買われていない。  
 図5は、ポルトガル10年債利回り。引き続き13%台。  
 (図5:ポルトガル10年債利回り)



(出所:ブルームバーグ)

そしてギリシャ1年債利回り。  
 こちらは支援策がまとまった後もその上昇ピッチを緩めない。すでに866%と異常値。  
 (図6:ギリシャ1年債利回り)



(出所:ブルームバーグ)

ギリシャ、ポルトガルといった国は未だに不安定。  
 きっかけ次第で再びユーロ危機再燃の火種となりかねない。

### 【原油、100ドル突破】

WTI原油、一時100ドルの大台を突破。  
 サウジアラビアのパイプラインが爆破されたとのニュースに反応。  
 中東における地政学的リスクが再び高まりつつある。  
 (図7:WTI[原油 日足])



(出所:ブルームバーグ)

当然、中東地域の地政学的リスクの増大が要因であるだけに、欧州市場のほうが過敏に反応。

図8は、北海ブレントとWTI原油の価格差を示したチャート。

再びスプレッドは拡大傾向。同スプレッドは長い間WTIがやや高い状態で推移してきた。

しかし、去年年初のアラブ諸国における民主化運動の高まりと共に、北海ブレントが上昇の主役としてクローズアップ。原油価格の主導権は欧州に移りつつある。

(図8:北海ブレントとWTIスプレッド)



(出所:ブルームバーグ)

### 【本日のおまけチャート 豪ドルと株価指数】

本日のおまけチャートは、これまで再三取り上げているが、豪ドルと株価指数の相関性の高さの再確認。

図9は、米国株価指数と豪ドルドルの動きを重ねたチャート。

ほぼ同じリズムで上昇。どちらもマーケットであっても、取引の際の参考にしていきたい。

(図9:ミニS&P先物指数/白・豪ドルドル/黄)



(出所:ブルームバーグ)

---

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。